

---

# 12の世界

ランベル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

12の世界

### 【Nコード】

N7047H

### 【作者名】

ランベル

### 【あらすじ】

《12の世界》      この世界は12の力によって支えられていた…しかし、突如そのバランスが崩れ始めた…その世界の政府は自分達の力では止められないと思い、地球に助けを求めた…その中の選ばれし4人の人間に世界の運命を任せたのである…しかし、なぜか選ばれた4人は皆子供だった…政府は何かの間違いだと言うが、その4人を連れてきた4人の戦士口元に笑みを浮かべこう言い放った…『大丈夫。こいつらはきっとこの世界を救ってくれる!!』  
……そう、この総勢8人がこの世界の運命を左右するのだった…

## Memory 1 レイと輝

とある夜、一人の少年の人生が大きく変わった…

「じゃあ母さん先に風呂入るよー！」

母の返事も待たず風呂場へと向かった。

風呂に入るため服を脱いでいると、何処からか声がした…

『……………』

「えっ？」

少年は母が何か言っただと思い、

「母さん、何か言った？」

「えっ！？なんも言っていないわよ？」

少年は首を傾げながら戻り、再び服を脱ぎ始めた。すると今度はハッキリと聞こえた。

『オイ、ポーズ…』

ふと、壁に貼ってある鏡を見て少年は身動きが取れなくなった。少年は鏡に指を差し、声も出なかった…

「……………！？」

少年の指先は大きく奮えていた。

少年の見る鏡の向こうには自分ではなく、別の誰かが映っていたの

だ。

鏡の中のその男は口を開き少年に向かって話始めた。

『オイ、ボーズ…喋らなくていいから今から俺が話す事をよく聞け』

「あ、あんた誰だよ！？なんで鏡の中に居んだよ！？どっから来たんだよ！？」『……………っ』

少年は男に喋らなくていいと言われたが、そんな事より自分の聞きたい事の方が優先だった。

ところが鏡の中の男はその一度にいくつもの質問に……キレた。

『質問は一個にしやがれこんのボーズ！！』

突然キレた男に少年は驚いた。

「お？おお！？」

鏡の中の男は落ち着き、再び話始めた。

『…ふう、そんじゃあもう一回話す。…率直に言う、お前にはしばらくこつちの世界に来てもらう。今すぐとは言わない。準備が出来しだい来てもらう。』

「はあ？おい、鏡のおと…」

『ちなみに俺の名前は、クロワード・レイだ…レイでいい…』

「じゃ、じゃあレイ？質問、レイが言う

「こつちの世界」ってのは鏡の中？」

少年は、手を挙げ質問した。レイは少しの沈黙の後に質問に答えた。

『まあ、間違ってわない。だが、鏡は一時的な通路だな…俺が言う

「こつちの世界」は全く別の異世界だ…その名は…《12の世界》  
(トウエルブワールド)」

「じゅ、12の世界!？」

少年は、目をぱちくりしレイを見てきた。

そしてレイは鏡の中に戻りながら少年に声をかけた。

『まあ、急がなくていいから準備ができれば、この鏡を叩いてくれ  
な』

「あ、ああ…」

『あつ、そーだ!ボーズ、お前の名前は?』

くろだひかり  
「黒田輝!」

レイは輝の名前を聞き終わると、鏡の中に戻って行った…

ここから、全ての歯車が動き出した…

## Memory 2 精神空間

「んん」

輝は手を前に伸ばしながら息をそつと吐いた。

風呂に入ってる間もいつもなら、リラックスするのだが、さっきの一件から心臓が落ち着きがなく、リラックスと言っふうにはならなかった…

（何なんだよアイツ…、急に現れてこっちに来いなんて…）  
「だー、もう！」

バシヤッ！

輝は一度にいくつもの事が起き、頭の中が混乱していた。

お湯の表面にはブクブクと潜っている輝の漏れた息が浮いてきた…  
その水泡が上がって来るテンポがだんだんと早くなってきた。

ブク…ブク…ブク　ブク　ブクブクブクブク！！　《ザッパーン  
！！！！》

勢いよく輝が起き上がってきた。

「ハア　ハア　ハア　死ぬかと思った…」

「ふうっ」と息を吐き天井を見上げた…

この時輝は少し行ってみたいと思いい心臓がドキドキしていた。

（ちよっと思ってみたいかなあ…）

そう思った瞬間、風呂場にも貼ってある鏡から手がニョッと出てきた。

「!？」

輝が大きく水を立て驚いている間にその手によって鏡の中へ連れ込まれた。

「う、うわあああ！」

輝はグツとつむっていた目を開くと、そこは、全く音のしない静かな草原だった…

すると、目の前にスウツと人影が現れた、人影の形が整うと見覚えのある顔だった。

「あつ、アンタは鏡の…」 『レイだ!』

レイは顔をグツと近付け言った。レイは輝を見下ろす姿勢でポイントと薬を投げた。薬は輝の手のひらにポツンと乗った…

『こつから先に行くにはその薬を飲め…』

輝は薬をじーっと見ていたが、何かを思い出したようにハツとなった。

「いやいやいや!そんな事より此処…どこだよ!」  
その瞬間草木がざわざわと風が荒くなった…  
それに気付いた輝は、

「え…？」

『此処はお前の精神空間だ…』 「精…神 空間？」

『ああ、だからお前の感情によって此処の空間も変わる。』

輝はへえへとまじまじ聞いていた。

精神空間も落ち着いてきた…

「ん？でも何でレイが俺の精神空間にいった？」

レイは頭を抱え込みながら何て説明しようか考えていた…

『まあ、その事はまた後で説明する…いいから今はその薬を飲め。』  
「……………」

（ゴクッ）



## Memory2 精神空間（後書き）

まだまだ未熟ですがよろしくお願いします（＊／ ｙ＊） 評価・  
感想お願いします。

### memory 3 政府本部へ…

輝はレイに言われたまま薬を飲み込んだ。

「ゲエー、苦えー」

飲み終わったのを見たレイは、

『よし、行くぞ！』

「？、行くつて？」

『こつちの世界の政府さんだよ…』

「……政府うー！？」

輝は疑問が残るままレイに手を引かれ、連れて行かれた。

### 政府本部

レイ達は政府の案内係らしき人物にに連れられて来た。輝とレイ以外にも6人、二人一組な感じだ。

しばらく歩くと大きな扉の前え来た。すると大きな扉の前にし、一人の少年が叫んだ、

「うつわー、でっけー！」

すると、その少年と共にいた男が、

『太陽、うるさい…！』

「あんだよ、ルイ…えらくかしこまっちゃって…」

どうやらこの二人の名前は太陽とルイらしい…

二人の会話を他の4人も聞いていると、扉が開いた…

《ゴゴゴゴ…!》

扉の奥には階段が高くそびえていた。

「たっけー!」

この階段を見てまた太陽が叫んだが、すぐさまルイが太陽の頭を《バチーン!》と叩いた。

「いつてー!ルイ」

しかし、太陽が前を向くと既に俺達は階段を登り始めていた。

「ちよっ、待って!」

あわてて太陽が追おうとすると、階段に足をかけ倒れこんだ。それを見た7人は皆、

(変な奴……)

すると、俺達を連れてきた4人が話し始めた…

「おいルイ…お前の連れてきた奴大丈夫か…リンもそう思うだろ…」

「ああ…」

「うつせー!てか、兄貴もうつせー!」

「おいお前等、そろそろ静かにしろ…お偉いさんのお目見えだ…」

『えっ…』

すると前方の椅子に格式高そうな身なりの男が座っていた。

「お勤めご苦労…」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7047h/>

---

12の世界

2011年1月14日03時33分発行